

# 価値観を一致させる

企業年金基金にスポンサーを反映すべき理由



# 責任投資原則 (PRI) の6つの原則

## 署名機関のコミットメント

私たち機関投資家には、受益者のために長期的視点に立ち、最大限の利益を追求する義務があります。この受託者の役割において(ある程度の会社間、業種間、地域間、資産クラス間、そして時代毎の違いはあるものの)、環境、社会、コーポレート・ガバナンス(ESG)の課題が投資ポートフォリオのパフォーマンスに影響する可能性があると考えます。また、PRIを適用することにより、投資家がより広範な社会の目的を達成できることも認識しています。したがって、受託者責任と合致することを条件に、私たちは以下の事項に取り組みます。

**1** 私たちは投資分析と意思決定のプロセスにESGの課題を組み込みます。

**2** 私たちは活動的な(株式)所有者になり、(株式の)所有方針と所有慣行にESG課題を組み入れます。

**3** 私たちは、投資対象の主体に対してESG課題について適切な開示を求めます。

**4** 私たちは、資産運用業界においてPRIが受け入れられ、実行に移されるように働きかけを行います。

**5** 私たちは、PRIを実行する際の効果を高めるために協働します。

**6** 私たちは、本原則の実行に関する活動状況や進捗状況に関して報告します。



## PRIのミッション

経済効率性が高く、持続可能なグローバル金融システムは、長期的な価値を創出する上で不可欠です。このようなシステムは、長期にわたる責任投資に報いて、環境と社会全体に利益をもたらします。

PRIは、次の方法で、持続可能なグローバル金融システムの達成を目指しています。1) PRIの採択と実施のための協力促進、2) 優れたガバナンス、整合性、説明責任の強化、3) 市場慣行や市場構造、規制内における持続可能な金融システムに対する障害への取り組み

### PRI免責事項

本報告書に含まれる情報は、情報提供のみを目的としており、投資、法務、税務その他の助言を意図しているものではなく、また投資その他の意思決定の根拠としていただくことも意図していません。本報告書は、著者および発行者が法務、経済、投資、または専門的な問題やサービスに関する助言を提供しているのではないという理解の上で提供されています。PRI Associationは、本報告書が参照しているウェブサイトのコンテンツおよび情報リソースについて責任を負いません。PRI Associationは、これらウェブサイトへのアクセスを提供し、また当該情報リソースを提供していますが、そこに含まれる情報の推薦を意味するものではありません。別途明示的な記載がある場合を除き、本報告書に記載される意見、推奨、調査結果、解釈、結論は、本報告書の様々な協力者のものであり、PRI Associationまたは責任投資原則(PRI)の署名機関の見解を表明するものではありません。企業の例を挙げていることは、PRI Associationまたは責任投資原則(PRI)の署名機関がそれらの企業を支持することを意味するものではありません。本報告書に含まれる情報は、信頼できる最新の情報源から取得するよう努力していますが、統計、法律、規則、規制には変化する性質があるため、本報告書に含まれる情報に遅延、脱漏、不正確性が生じる場合があります。PRI Associationは、本報告書に含まれる情報の誤謬、脱漏、または本報告書に含まれる情報に基づく意思決定もしくは行動、またはかかる意思決定もしくは行動に起因する損失もしくは損害について責任を負いません。本報告書に含まれるすべての情報は「現状有姿」で提供され、完全性、正確性、適時性またはこの情報の使用から得られた結果について一切保証せず、あらゆる種類の明示的、黙示的な保証をしません。

## 序文

持続可能性(サステナビリティ)の方針と慣行に関連して、企業内では目覚ましい変化が起きている一方、企業年金基金はまだ手つかずの分野と言えます。企業、中でも特に大企業は、従業員と退職者に代わり、大規模な投資を行っています。また、多くの企業年金基金は、社内の他部門では見て取れる持続可能性の実践や基準と、必ずしも同様に進展していないことも事実です。

これは、そこに機会があるということを意味します。多くの年金は資金不足となっています。そのため、持続可能性へのより広範な取り組みの一環として、責任のある持続可能な投資を通して資金を増やすことへの注力は、受益者のより確実な年金収入に寄与すると同時に、退職に適した世界も提供します。このようにして、企業は過去、現在、未来の従業員だけでなく、株主その他のステークホルダーの利益を尊重する姿勢を示すことができます。

国連グローバル・コンパクトは、責任投資慣行の導入をより多くの企業年金基金に対して推進する上で、責任投資原則(PRI)との協働に計り知れない可能性を見ています。

すべての国連加盟国に採択された、2030アジェンダおよび持続可能な開発目標(SDG)は、世界が共に向かう先について明確なビジョンを示しており、これを達成するには、民間企業が主要な役割を果たさなければなりません。年金基金にESGへの配慮を組み入れることによって、企業は、これらのグローバル目標の達成に重要な役割を果たすことができます。

PRIの企業年金の署名機関のうち、すでに58%が自社における責任ある投資方針の策定基盤として、国連グローバル・コンパクトの10原則を使用していると表明しています。今、さらに多くの企業の参加が必要とされています。

私はすべての企業に対し、国連グローバル・コンパクトへの参加、PRIへの署名、持続可能な方法での資本配分の開始を求めます。



Lise Kingo, エグゼクティブディレクター  
国連グローバル・コンパクト

今後も私たちは、引き続きPRIとのパートナーシップを深めながら、より多くの責任ある企業が持続可能な目標にその年金を同調させる方向へと進むよう取り組みます。私たちが望む世界を創るには、さらに多数の投資家と企業が手を組み、重要なESGと持続可能性の課題の解決を促進する必要があります。

# 謝辞

本書は、PRIおよび開発における専門知識を共有して下さった多数のPRI署名機関の皆様のご支援により作成されました。本書内の分析はPRIの分析であり、PRIの個々の署名機関の見解を表わすものと解釈されるべきではありません。PRIはインタビューの実施に際し、EY社のMark Fisher、Kimon Demetriadesの両氏にご協力いただきました。本書の作成にあたり、貴重なご意見や助言をくださった皆様に感謝いたします。

PRIは特に、ご協力いただいた下記の署名機関の皆様に謝意を表明します。

- David Ingram、責任投資部門責任者、BT
- Roger Otten、投資マネージャー、Stichting Philips Pensioenfond
- Grégory Schneider-Maunoury、SRI責任者、Humanis Gestion d'Actifs、Humanis
- MarkWalker、グローバル最高投資責任者、Unilever年金基金 (Uninvest Company)、英国
- 八木博一、常務理事、セコム企業年金基金

# はじめに

過去20年間にわたり、企業と投資家は、企業価値を創造し、長期的に持続させる方法について再考しています。

ほとんどの企業経営陣は、もはや長期的な成長を犠牲にした短期的な収益性を優先させていません。また、企業の競争優位性、持続可能な成長ポテンシャル、長期的な実行可能性を評価するにあたり、ステークホルダーに加え、顧客、サプライヤー、従業員など、その他の利害関係者を考慮することも多くなっています。

企業セクターにおける最近の進展を反映して、今では世界の主要な機関投資家の多くが、投資の意思決定の際に環境・社会・ガバナンス (ESG) の課題を考慮しています。

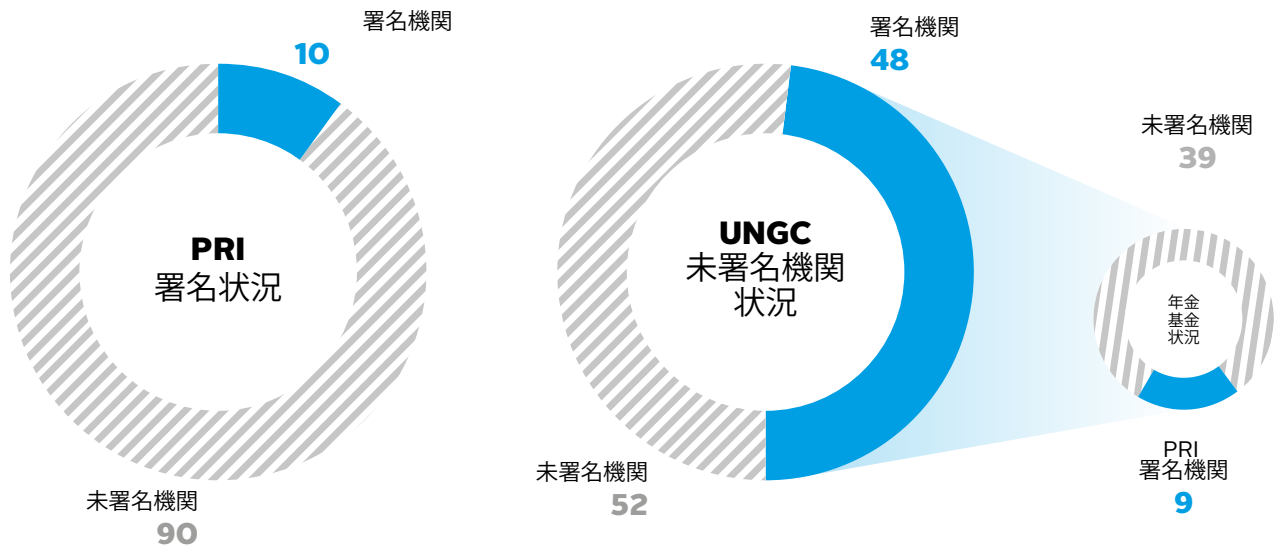
企業と投資家は、新しいアプローチを公約で補完します。合計62兆ドル以上を運用している投資家が、国連が支援する責任投資原則 (PRI) に署名し、12,000社以上の企業が国連グローバル・コンパクト (UNGC) に署名しています。

この一例が、Unilever社とその企業年金基金であるUnivestです。CEOのPaul Polman氏は、Unileverの150年の歴史の中で最も不安定な時期のひとつにトップに就き、同氏の指揮の下で大規模な変革を遂げた同社は、2010年にサステナブル・リビング・プランを開始し、今ではサステナビリティの世界的リーダーとして広く認められています。Unileverは、「持続可能な公正成長のみが容認できるビジネスモデルである」と考えています。

UnivestのCIO、Mark Walker氏の後押しにより、先日UnileverはRPI署名機関となりました。UnileverとUnivestは、持続可能性と責任投資に関して一貫したアプローチを取る企業スポンサーおよび基金受益者の双方に対し、そのメリットを支持しました。

Unileverの行動にもかかわらず、明示的にESG課題を投資の意思決定に組み入れている投資家グループの間では、特に公的な年金や寄付と基金を比較した場合、企業年金基金は依然として主流となっていません。例えば、世界の大企業の50%近くが国連グローバル・コンパクトに署名しているにもかかわらず、そのうちPRIに署名している企業年金基金は10%に過ぎません<sup>1</sup>。

図1：企業年金基金トップ100。出所：PRI、国連グローバル・コンパクト (UNGC)、Willis Towers Watson。2017年3月現在の分析。運用資産別ランク付け。



1 Pensions & Investments/Willis Towers Watson, 'World's 300 Largest Pension Funds Analysis 2015' (2016年9月): <https://www.willistowerswatson.com/en/insights/2016/09/The-worlds-300-largest-pension-funds-year-ended-2015>

---

企業年金基金は法的にそのスポンサーと異なりますが、基金とその受益者は、以下のような数々の面において、責任投資からメリットを享受できます。

- 投資パフォーマンスの向上
- 受託者責任の履行と規制リスクの管理
- 外部の運用会社および第三者アドバイザーとの協調の向上
- 赤字管理の支援
- 企業スポンサーの信用度および従業員定着率の引き上げ

企業年金基金は、責任投資を成功に導くことができると同時にそうすべきものです。本書は、企業、企業年金基金、その受託者およびアドバイザーの皆様、投資の意思決定にESGの課題を組み込むことのメリットをご理解いただくための情報を提供しています。

# 年金基金にスポンサーの価値観を反映すべき理由

## 1. 責任ある投資慣行により投資パフォーマンスを強化できます

“受託者は、学術的証拠と実務家の証拠に基づき当社がまとめた一連の責任投資の信念に賛同しました。受託者は、運用会社の選定プロセスへのESGインテグレーションが、長期的なリスク調整後リターンの改善につながると考えています。”

Douglas Clark, 運用会社選定責任者、BT年金制度管理、英国

数多くの企業年金基金の間で、ESG課題は投資の意思決定に価値を付加しないという認識が根強くありますが、このような考え方は時代遅れです。

ESG要素を組み入れることは、次のような理由から投資パフォーマンスの向上につながります。

- ボラティリティの低減とリスク調整後リターンの増加
- 市場が困難な状況にある間のドローダウンの可能性の低減
- 資産配分の強化

ESG課題は、投資分析において目新しいものではありません。年金基金や投資運用者は、何十年も前からESG課題を検討しており、「ESG」という名前にもあまり言及しなかったにすぎません。長年、企業の開示規制フレームワークでは、ESG関連の情報の報告を義務付けており、これには、取締役会の構造と構成の方法、職場の方針と慣行、原材料の調達などがあります。

新しいものは、ポートフォリオの構築か売買の意思決定かを問わず、投資家を実施するESG分析の範囲と洗練度です。

投資家によるESG分析が急速に増加している主な理由の一つは、サステナビリティの慣行が投資パフォーマンスにポジティブな影

響を与えるという、学界からの証拠が増えていることにあります。ESG課題に関する重要な新しい学術研究の結果には、以下が含まれます。

- ESG分析によって、投資家はコーポレート・ガバナンスの失敗の早期兆候を把握し、価値を破壊する行動を特定することができます。つまり、投資家は強力な経営陣と持続可能なビジネスモデルを備えた企業を選定することができます<sup>2</sup>。
- 長期的にコーポレート・ガバナンスに取り組み<sup>3</sup> 株主の権利を行使する<sup>4</sup>投資家は、リスク調整後リターンの強化を実現することができます。
- CDP<sup>5</sup>を通して炭素排出量を開示する企業は、開示しない同業他社よりも良好な貸付け条件を享受し、(同業他社との比較において)炭素排出レベルの高い企業は、より高い金利負担がローンに課されます<sup>6</sup>。
- 持続可能性に関してDeutsche Wealth and Asset Managementとハンブルク大学が実施した2,000件以上の学術研究を調査した最近のメタスタディによれば、「ESG投資のビジネスケースは十分な根拠に基づき」、「ESGへの投資は財務的に報われ、長期的に安定する」ことが示されています<sup>7</sup>。

投資分析の他の機能と同様に、ESG課題が価値に与えるセクター別のインパクトの比重については、一定の裁量と判断が関わってきます。金融サービスにおいては、例えば、規制・法的リスクの監視、従業員の賃金、利益相反マネジメントを含むガバナンス問題は、環境要因や社会要因よりも証券価値に重要な可能性が高いと言えます。しかし、鉱業のような採取産業の場合、地域をベースとしていることが多く、操業のソーシャルライセンス(社会的認可)の保持は、安全衛生、労働基準、環境管理に関する保有者の過去の記録に影響されることがよくあります。

2 ESGに関する調査研究、フィナンシャルタイムズ誌: <https://www.ft.com/content/b22c49c8-06e8-11e2-92ef-00144feabdc0>

3 “Calpers Effect” Continues to Improve Company Performance: <https://www.calpers.ca.gov/page/newsroom/calpers-news/2014/company-performance>

4 フロリダ州運用管理理事会 (SBA) Florida, ‘Valuing the vote: the impact of proxy voting on SBA portfolio holdings’, 2015年6月

[http://www.sustainablefinance.ch/upload/cms/user/2015\\_06\\_SBAValuingtheVote2015.pdf](http://www.sustainablefinance.ch/upload/cms/user/2015_06_SBAValuingtheVote2015.pdf)

5 カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト

6 Stefanie Kleimeier and Michael Viehs, ‘Carbon Disclosure, Emission Levels, and the Cost of Debt’ (2016年1月)

[https://papers.ssrn.com/sol3/Papers.cfm?abstract\\_id=2719665](https://papers.ssrn.com/sol3/Papers.cfm?abstract_id=2719665)

7 Deutsche Wealth & Asset Managementおよびハンブルク大学。Friede, Lewis, Bassen & Busch, ‘ESG & Corporate Financial Performance: Mapping the global landscape’ (2015年12月):

[https://institutional.deutscheam.com/content/\\_media/K15090\\_Academic\\_Insights\\_UK\\_EMEA\\_RZ\\_Online\\_151201\\_Final\\_\(2\).pdf](https://institutional.deutscheam.com/content/_media/K15090_Academic_Insights_UK_EMEA_RZ_Online_151201_Final_(2).pdf)

## 2. 責任ある投資は、受託者責任の履行と規制リスクの管理に役立ちます

“当社は、ESG分析の除外が当社の受託者責任を損なうと考えます。そのため、ESG課題を当社の企業年金制度に組み入れています。この決定は企業スポンサーとは無関係に下されたものです。”

Dr Roger Otten, 投資マネージャー、Stichting Philips Pensioenfonds、オランダ

[The global guide to responsible investment regulation \(責任投資規制に関する国際ガイド\)](#) では、責任投資を義務付ける、または奨励する約300件の規制項目を特定しており、そのうち半数は過去3年以内に導入されたものです

このような進展は、数々の面で受託者責任の理解に裏付けられ、企業の取締役を対象としています。これらも短期的な利益の最大化を求めるよう狭義に解釈されており、法域によっては、従業員、地域社会、債権者といったその他の利害関係者を株主の検討から除外することを義務付けています。

しかしながら、最近の法的分析やビジネス解説では、長期的に持続可能な企業価値創造の重要性への注目が高まっており、これには、企業のビジネスモデルにおけるESG課題への依存度評価が必要です。受託者責任では受益者に対する責任の履行が重要であり、これを他の活動のように外部に委託することはできません。

企業年金基金は、受益者に対する受託者責任を負っています。受託者責任は、自身の利益や企業スポンサーの利益のためではなく、受益者の利益を追求する目的において他者の金銭を運用することを保証するために存在します。ところが、企業年金基金によっては、受益者に対して負う受託者責任を狭義で捉え、受託者責任が投資プロセスでのESG課題の考慮を阻むと反論するものもあります。先日発行されたPRIの報告書[Fiduciary duty in the 21st century \(21世紀の受託者責任\)](#) に詳細が説明されていますが、このような見解はESG課題の誤った解釈が原因となっています。

受託者責任は、責任投資への障壁ではありません。ESG課題が重大である場合に、それらを見做すことは受託者責任の不履行を意味します。ESG要素は、効果的なリスク・リターン分析を実施して、会計報告を正しく解釈し、将来の投資パフォーマンスを適切に判断する上で不可欠なことがよくあります。受託者責任の履行において重要なのは、要素の出所または名前ではなく、その要素が財務上重要かどうかです。

受託者責任の要件と理解は、責任投資に関連する規制の増加により、ますます強化されています。先日発行されたPRIの報告書



### 3. 責任投資によって、外部の運用会社と第三者アドバイザーをよりうまく提携させることができます

“従業員は17,000人ですが、年金制度に取り組んでいる従業員は5人です。”

Hiroichi Yagi, Managing Director, Secom Pension Fund, Japan

企業年金基金は、リソースに制限のある組織の場合が多く、専門スタッフがほとんどおらず、直接の投資スペシャリストは不在状態です。必要な投資スキルを持つスペシャリストが社内にはいないため、大半の基金は、資産運用の一部または全部を第三者の運用会社に委託しています。したがって、多くの基金は以下に影響を与えるだけの規模、能力、専門知識を持ち合わせていません。

- 投資業界で活用できるESG関連の戦略とソリューションの範囲
- 基金の運用と設計に組み入れる当該商品の持続可能性
- 運用者によって検討、実践されているESG課題の範囲

このような理由から、企業年金基金は、その運用会社またはその他アドバイザーに対し、ESG関連のパフォーマンスについて、最も関連性の高い質問や難しい質問を発する強い意識を持ち合わせていない可能性があります。

企業年金基金が投資顧問会社のアドバイスに大きく依存するのは、これらの制約が原因となっています。投資顧問会社は、基金とそのスタッフに重要なインフラを提供し、戦略的な資産配分、検討すべき投資戦略の範囲、および基金の全体的なパフォーマンス目標の策定に協力します。また、基金の投資運用者の評価と選定を行うメカニズムの役割も果たします。

現在では、大規模な投資顧問会社の多くがスペシャリストの責任投資能力を備えています。しかし、多くの顧問会社は、顧客からの商業的な引き合いがない限り、確立された責任投資慣行を自社の中核的な投資顧問業務に未だ組み込んでいません。PRIをはじめとする組織は、企業年金基金が、その制度のアドバイザーやサービスプロバイダーから最善の結果を得る上で役立つ、貴重な見識を提供することができます。

例えば、企業年金基金は以下を実行できます。

- 投資方針要綱や投資原則要綱にESG課題を組み入れる
- 受託者や運営組織のメンバーへの受託者トレーニングを拡大してESGの課題を網羅する
- 投資運用者の選定、指名、監視にESGに関する質問を追加する

企業年金制度は、公開会社の取締役会と同じ監視・規制フレームワークの対象ではないため、ガバナンス機関と同等の監視対象にならない傾向があります。ESGの組み込みなど、新しい慣行の導入には時間を要するかもしれません。企業年金基金は、必ず新たなガバナンス慣行を常に採用し、できるだけ効果的に受益者の資金を運用できる体制を整えておくべきです。

#### 4. 責任投資によって赤字管理を支援できます

“責任投資について議論すると、『ESGの課題について2時間を費やしたが、当社の赤字はどうなのか?』と問う人がよくいます。”

MarkWalker、グローバル最高投資責任者、Unilever年金基金(Uninvest Company)、英国

世界の年金におけるリスク移転の全体傾向としては、年金基金の積み立て状況が許す際に、確定給付型から確定拠出(DC)型への切り替えを行い、確定給付型基金のリスク回避の手配を実施します。

基金の赤字規模の縮小とリスク移転は、制度の運営組織およびそのアドバイザーのアジェンダに影響を及ぼすことがよくあります。赤字についての議論は、基金とスポンサーの関係に重圧となりえます。未積立の大規模な年金債務は、企業スポンサーの財務健全性にネガティブな市場認識を生むことがあり、ほとんどの場合、大幅赤字を埋めるのにスポンサーによる大きな対価の譲渡が必要とされ、大抵は将来の配当金を放棄するか、より大きな財務レバレッジを取ることが必要となります。

このような対価の譲渡の規模と赤字計算の「概念的」性質から、スポンサーは、時間の経過と共に変化するそのような赤字を埋める

ことに対して(可能であっても)消極的な場合があります。その結果、基金の受託者は通常、時間をかけて積立水準と赤字管理の問題を確認し、責任投資の課題が見過ごされていないかに注意を払います。

基金の投資方針と手順を拡大して掘り下げれば、責任投資の検討は、赤字管理にポジティブに寄与する一歩の尺度に組み込むことができます。

投資プロセスと意思決定へのESGインテグレーションは、査定済みの制度のコスト上昇に必ずしも直接つながることはなく、現在の制度のアドバイザーを通して導入することが可能です。より包括的なアプローチを通じて、基金は投資リスクへの理解をさらに深め、より良い資産配分と運用会社の選定が実行できます。

## 5. 責任投資によって、スポンサーの信用度と従業員定着率を引き上げることができます

「私たちは、年金と投資を興味深く、ニーズと若いメンバーの価値に関連したものにする必要があります」

Mark Thompson、最高投資責任者、HSBC 銀行年金制度、英国

多数の企業年金基金の確定給付型から確定拠出型への移行は、変化する従業員の期待とニーズを満たす責任投資慣行を導入する新たな機会を受託者にもたらしています。確定拠出型年金は、収入代替に関して大幅に低い確実性を受益者に提供する一方、投資パフォーマンスの債務をスポンサーや基金からメンバーへと効果的に移転するため、受益者は自分の投資選択において関与を深める必要があります。

このような責任の移行により、受益者は、代理で行われている投資をこれまでよりもコントロールできるだけでなく、多くの場合、それらの選択肢に責任と持続可能性が備わっているかを知ることへの興味を強めます。

企業の目的において、企業年金基金は従業員の福祉推進イニシアティブのより広範なパッケージの一部となっています。従業員は、消費者と投資判断に対する潜在的なインパクトへの高い認識を持ち、ESG課題への興味を強めており、その多くは、サステナビリティを企業の価値観の要素とする企業で働きたいと考えます<sup>8</sup>。したがって、そのような需要に対し、適切な範囲の投資選択肢と関連情報で対応する企業年金基金は、持続可能な企業であるというスポンサーの評判を享受・強化することができ、これを従業員の募集・定着のためのツールとしても使用できるかもしれませぬ。

この増大する需要に応じて、代替の投資選択肢として「グリーン」「倫理的」「SRI9」のバッジ付きのファンドを提供する基金の数は、この数年で大幅に増加しています。しかし、大半の従業員は既定の

オプションを選択するため、基金とスポンサーは共に、既定の確定拠出型基金に責任投資の検討を組み込むことで、より多く得るものがあります。

これに関して言えば、新しいHSBC UKデフォルト確定拠出型年金オプション(Future World Fund)は画期的なイニシアティブです。これはESG関連課題に対するHSBC受益者間での認識の高まりに対応する意味もあり、導入されました。20億ポンド以上の価値を有するFuture WorldFundは、英国従業員向けに新しいデフォルトのグローバル株式オプションとして気候変動に「ティルト(意図的な傾斜)」を加えた、Legal & General(LGIM) マルチファクター投資ソリューションです。

FTSEラッセルインデックスを使用して、炭素排出の多い企業の株式へのエクスポージャーを減らし、炭素排出の少ない企業の株式へのエクスポージャーを増やします。

このファンドは、ファンドが取って代わる時価総額加重型グローバル・エクイティ・ファンドよりも、よりリスク調整されたリターンを実現することが期待されています。成功すれば、このファンドがHSBCの英国の確定給付(DB)型制度における同社の株式アロケーションにも取って代わる可能性があります。

確定拠出(DC)型年金への移行によって、企業スポンサーとその基金には、自社の従業員との関係を再調整する機会が生まれます。したがって、適切で費用効率の高い責任投資の選択肢を提供する確定拠出型制度は、重要かつ貴重なブランディング提案であり、企業の持続可能性へのコミットメントを従業員とその他利害関係者に促進します。

8 持続可能なシグナル:個人投資家の視点。Morgan Stanley。2015年:

[https://www.morganstanley.com/sustainableinvesting/pdf/Sustainable\\_Signals.pdf](https://www.morganstanley.com/sustainableinvesting/pdf/Sustainable_Signals.pdf)

9 社会的責任投資

# 次のステップ

## 基金をより持続可能にするには

本書で説明しているように、企業とその年金基金には、持続可能性に関する補完的アプローチを採用する一方で、基金の独立性を維持する多数の機会があります。また、PRIリソースを役立て、企業年金基金が責任投資の道を歩み始めるには多数の方法があります。例えば、企業年金基金は以下を実行できます。

- 責任投資、および基金や企業の目標と投資責任との関連性について、運営組織内および企業スポンサーとの対話を開始する
- 投資責任への基金の姿勢について受益者にフィードバックを求めることを、基金連絡事項の年間予定に含める
- サービス内でのESGインテグレーションと責任投資へのアプローチについて、サービスプロバイダーである投資顧問会社および投資運用者の両方と対話を開始する
- リソースとトレーニングを活用し、基金運営組織でのESGインテグレーションと責任投資への認識レベルを高める
- PRIに参加する

## PRIへの参加を役立てるには

PRIに参加することによって、貴社は、合計62兆ドル以上の資産を運用する1,700件以上の署名機関から成る、主要なグローバルネットワークの一員となります。そして、国際的に認められている一式的原則からメリットを得て、国連との独立したつながりを通し、責任投資へのコミットメントを示します

以下を通して、PRIは、署名機関がより持続可能な金融システムを構築するための支援を行います。

- 数々の資産クラス別のガイド、ツールキット、ケーススタディ。
- 他の署名機関と共にイベントやワークショップに出席・参加する機会。ネットワーキングや知識共有のチャンスが得られます。
- PIRのプライベート・オンラインリソース「コラボレーション・プラットフォーム」へのアクセス。署名機関は、企業、政策立案者、学者らに加え、1,700件以上の投資家やサービスプロバイダーと共に学び、取り組み、協働することができます。
- PRIのアカデミック・ネットワーク。署名機関は、主要な学術研究の結果へのアクセスおよび学者とのコラボレーションの機会が得られます。
- PRIアカデミー。スタッフと受託者のニーズに合わせてカスタマイズできるCFA認定オンライントレーニングシステムです。
- レポートング・ネットワーク。企業年金基金と受益者の間のコミュニケーションを構造化する方法についてご案内します。
- 世界中に配置され現地でのサポートを提供する専任ネットワークマネージャー。

## 責任投資に関するリソース

- [株式投資にESGを取り入れるための実践ガイドブック](#)  
本ガイドには、ファンダメンタル投資、クオンツ投資、スマート・ベータ投資、パッシブ投資などの株式投資戦略に適用されるESGインテグレーション・テクニックに関する情報が記載されています。
- [投資戦略の策定：資産保有者のためのプロセスガイダンス \(Crafting an investment strategy: a process guidance for asset owners\)](#)  
本書は、資産保有者（およびその評議会と役員を含む）による投資戦略の開発・策定を支援し、6つのステップ全体にSEG課題を組み込む方法について概説しています。
- [投資方針：プロセスと実務 – 資産保有者のためのガイドブック \(Investment policy: process and practice – a guide for asset owners\)](#)  
資産保有者による投資方針の改訂を支援するための、簡潔かつ実装可能なフレームワークです。
- [Aligning expectations – guidance for asset owners \(期待を一致させる – 資産保有者のためのガイダンス\)](#)  
ESG要素を運用者の選定、指名、モニタリングに組み入れる方法について説明しています。

## CREDITS

Authors: Anastasia Guha (PRI), Will Martindale (PRI) and Brian Tomlinson (consultant)

Editors: Mark Kolmar and Ruth Wallis

Design: Alessandro Boaretto

## 責任投資原則 (PRI)

PRIは、署名機関の国際的なネットワークと協力し、6つの責任投資原則を実施しています。PRIは、環境・社会・ガバナンス (ESG) の課題と投資の関係性を理解し、署名機関がこれらの課題を投資の意思決定や株主としての行動に組み込む際に支援を提供することを目的としています。PRIは、署名機関、署名機関が展開している金融市場や国の長期的利益、ひいては環境や社会全体の利益となるように行動しています。

責任投資のための6つの原則は、ESG課題を投資実務に組み込むために可能な行動のメニューを提供する、自主的かつ志向的な投資原則です。この原則は、投資家のために、投資家により開発されました。この原則を実施するうえで、署名機関は、より持続可能なグローバル金融システムの開発に貢献します。

詳細はウェブサイト[www.unpri.org](http://www.unpri.org)をご覧ください



## PRIは国連環境計画・金融イニシアティブおよび国連グローバル・コンパクトとパートナーシップを結んだ投資家イニシアティブです

### 国連環境計画・金融イニシアティブ (UNEP FI)

UNEPFIは、国連環境計画 (UNEP) と世界の金融セクターの固有のパートナーシップです。UNEPFIの「持続可能な発展」宣言に署名した200社以上の金融機関や幅広いパートナー組織と協力し、サステナビリティと財務パフォーマンスの関係性の発展と促進に努めています。UNEP FIは、金融機関のさまざまな事業レベルに導入できる環境とサステナビリティのためのベストプラクティスの調査、促進、実現という目的のもと、同業種間のネットワーク、調査、トレーニングを提供しています。

詳細はウェブサイト[www.unpri.org](http://www.unpri.org)をご覧ください。



### 国連グローバル・コンパクト

国連グローバル・コンパクトは、人権、労働、環境、腐敗防止の分野で普遍的に受け入れられている10の原則をもとに、各国企業が事業や戦略を調整し、国連の目標や課題を支援するための行動を取るよう、持続可能な開発目標に具体化されています。国連グローバル・コンパクトは、責任ある企業慣行の開発、実施、開示のためのリーダーシップ・プラットフォームです。2000年に発足した国連グローバル・コンパクトは、企業によるサステナビリティのための世界最大のイニシアティブで、160か国以上で8,800社以上の企業と4,000の非営利団体が署名しており、これらが80以上の現地ネットワークを形成しています。

詳細はウェブサイト[www.unglobalcompact.org](http://www.unglobalcompact.org)をご覧ください。

